

「証言 雪崩遭難」(阿部 幹雄著)

著者は 1953 年生れ。写真家、雪崩事故防止研究会代表。

1981 年 5 月北海道山岳連盟日中友好登山隊の一員としてヒマラヤ東部のミニャ・コンガ(7556m)に遠征、登攀中に頂上直下で 8 名が滑落、偶々皆とアンザイレンしていなかった本人だけが生き残り、その体験から「山から生きて還る」を目的に雪崩教育のボランティア活動を行っている。本書では 2007 年から 2021 年まで全国で起きた雪崩事故を徹底検証し事例ごとに雪崩の恐ろしさを啓発し注意を促す。適切な準備と対応で助かったケースがあり、今から雪山へ登ろうとする人は三種の神器と呼ばれる雪山トランシーバー(旧称・ピーコン)、スコップ、プローブの必携とその使用法に習熟すべきと訴える。取り上げられた事例は以下の 7 件である。



- (1) 十勝連峰・上ホロカメットク山 1920m 下降ルンゼ 2007 年 11 月 13 日
北大山スキー部 OB/OG の 2 名、安政火口付近で二人の間に亀裂が入り男性が距離にして 280m 近く流されて埋没。10m 程先で巻き込まれなかった女性は持参した雪崩トランシーバーとスコップで捜索、デブリ末端で黒い点(スキーの先端だった)を見つけ、近づくトランシーバーがピーピーと鳴りだし生存救出した。同行者や仲間による捜索救助を「コンパニオン・レスキュー」というが、今回は学生時代から行ってきた捜索訓練の成果であり、早期発見の重要性が確認された。
- (2) 十勝連峰・上ホロカメットク山 1920m 化物岩 2007 年 11 月 23 日
上記の事故 10 日後又しても同じ場所で雪崩事故があり 4 名が亡くなる。勤労感謝の日のこの時期は、上ホロ周辺は冬山訓練に適しており当日も北大山岳部・ワンゲル部 OB 4 名(男)、札幌労山 9 名、札幌山の会 13 名、日本山岳会北海道支部 11 名、千歳市の 4 人組等で賑わっており、この内北大ワンゲル部 1 名、日本山岳会隊 11 名全員が雪崩に巻き込まれ 4 名死亡という大惨事となった。他の隊は全員雪崩トランシーバーを携行していたが、日本山岳会隊は 4 名のみで、トランシーバー携行の有無が生死を分けた事になり北海道登山界に大きな衝撃を与え一気に三種の神器の普及が広まったという。著者は今の<内地>の登山者、スキーヤーの認識はこの頃の日本山岳会北海道支部のレベルで危なっかしくて見ていられないと嘆く。
- (3) 伯耆大山 1729m 別山沢 2016 年 2 月 28 日
バックカントリースキーのベテラン 2 名が油断から雪崩を誘発するも自力脱出、雪崩トランシーバーは持っていたが使用経験はなかった。
- (4) 北アルプス・立山浄土山 2831m 2016 年 11 月 29 日
雪訓で登山中の東工大ワンゲル部 6 名が雪崩に巻き込まれ自力脱出した 3 名でデブリ末端に埋没していた 3 名を救出するも、1 名死亡。雪崩発生後 30 分経過していた。雪崩注意報をチェックせず悪天候の中での行動に無理があった。

- (5) 尾瀬・燧ヶ岳 2356m 硫黄沢右俣 2019年3月9日
 プロ級の腕前のスキーヤーが単独でバックカントリーに挑む。ヘリコプターで捜索してくれる「ココヘリ」に加入していたが、埋没点が 1.5m と深すぎて探知能力が減衰し発見が遅れ死亡確認。
- (6) 白馬乗鞍岳・天狗原 2020年2月28日
 プロスノーボーダーが雪崩を誘発、標高差 350m、長さ 550m も流され、深さ 1 ㍍に埋没。トランシーバーは持参したが電源は入れ忘れていた。近くでガイド資格検定中の 2 つのパーティ 10 名とスキーヤー 3 名が短時間で広範囲を捜索できる世界最新のプローブによる捜索法「スラロームプロービング」で捜索開始。埋没後 3 時間経過していたが無事救出する。
- (7) 大雪山・上川岳 1884m 2021年2月28日
 北大山スキー部 4 名が層雲峡⇒旭岳の縦走を試みるも悪天候で退却、白水沢下降中に雪崩に遭遇 2 名埋没。通りかかった 4 人組とスノーボーダー 2 名の協力を得て、適切な低体温症への保温・加温が実施されコンパニオン・レスキューに成功する

★ 読後感はまず「雪崩の恐さ」で、己の雪山登山の過去を振り返り「よくぞまあ無事に下山出来たもの、良かったなあ」であり、三種の神器無しで登ったここ何年かのスノーシュー山行「あれは危なかったのかもなあ」という反省だ。90年代半ば、当時師事していたプロガイド S 氏に勧めらビーコン、スコップは雪山必携となったが、初歩的な使用法を習っただけでお守り程度の認識しかなく、その後も会の冬山講習会で何回か訓練受けたものの実際に使う場面もなく、いつしかただのお荷物となって手放してしまった。が、その後も磐梯山や上州武尊山、谷川岳、蔵王等でスノーシュー登山を続けており、雪崩事故の可能性を考えればこれは控えるべきだったかと思う。これから雪山へ挑戦する皆さんは三種の神器は必携と心得、自分と仲間の為にその使用法に習熟され、素早い対応を身に着ける事を切に願う。尚、雪崩は怖いし体力も問題ありで自分はもう厳冬期(1~3月)の雪山は潔く諦めることにしました。

★ 《その他推奨する阿部幹雄の本・いずれも出版は山と溪谷社》

- | | | |
|--------------------|----------|-------|
| 1. 北千島冒険紀行 | 1992年10月 | 2400円 |
| 2. 生と死のミニャ・コンガ | 2000年9月 | 1700円 |
| 3. 那須雪崩事故の真相—銀嶺の破断 | 2019年6月 | 1760円 |

「証言 雪崩遭難」(阿部 幹雄著) 山と溪谷社 2023年12月刊 1870円 (AKA)